

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域から信頼され必要とされる「地域に根ざした身近な府立高校」づくりのため「南河内の星」すなわち地域のリーダーを育てる学校づくりを行う。その基礎となる生徒育成目標として「何事にもあきらめずに自信を持って生き、人としての行うべき義務、主張する権利を理解した善良な市民として活躍できる生徒の育成を図る」を掲げながら、互いの意志を尊重しあう風土を醸成することを基本として心の絆を強めあい、互いを尊重できる良好なコミュニケーションを育て、学び合い高め合う関係を構築する。その上で、すべての生徒に以下の「心と態度と力」を身につけさせる。

- (1) 健やかな体と豊かな心を育てる。
- (2) 学ぶ喜びと将来への希望を持たせ、本来自分が持つ力を発揮する態度を養う。
- (3) 反省と克己に基づく自己教育力を育成し、自己選択・自己決定ができる力を向上させる。
- (4) 地域の歴史、自然、文化に学び郷土を愛する力を付ける。
- (5) 郷土愛を醸成した上で、世界に通じる人材を育成する。特に、国際理解教育に力点を置いていく。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成(勉強がわかる喜びの育成)

(1) 生徒の基礎学力を向上させ、自己肯定感を高める。

- ① 「分かる授業」・「楽しい授業」を実現するため、習熟度別少人数授業を積極的に展開し、小・中学校でのつまづきを回復し、基礎学力の充実を図り、自ら学ぶ意欲を育てる。
- ② 授業研究プロジェクトチームを継続し、公開授業や研究授業などの授業研究についての取り組みを積極的に展開し、授業の質と教員の授業力のさらなる向上に努める。
- ③ 学校経営推進事業により情報環境を整え、ICT 機器を活用し、生徒が意欲的に取り組むことのできる授業改善に取り組む。書画カメラ、タブレット端末などを活用しながら新しい授業形態(学び合い協同学習)を拡大する。
- ④ 朝学習を導入し、学習習慣の定着を図る。
- ⑤ 基礎学力診断テストを継続して実施し、その結果を授業や補習、講習等に活用する。
- ⑥ 種々の授業形態や方法等の研究に努め、外部講師を招聘した校内研修や校外研修、他校との交流を積極的に行う。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた教育課程を編成し、希望進路の決定率を上昇する。

- ① 難関私立四年制(産近甲龍)大学進学希望者を対象に、特別授業を実施する。(5名の入学をめざしていく)
- ② 三年間の総合学習のなかで「政治的教養学」「郷土学」を導入し体験的な学習や自己探求型学習を導入する。地元探訪を中心とした「郷土学」の基盤を完成させ、新たなコース設定につなげていく。
- ③ 平成 29 年度入学生 2 年次から実施の 7 コース(情報、体育、芸術、郷土、就職、看護、進学)の授業案の完成を図る。
- ④ 平成 29 年度入学生新講座「長北タイム」で、情報リテラシーを中心に情報化社会に生きる人材の育成を図る。
- ⑤ 平成 29 年度入学生新講座「朝学習」で、「今⇄未来手帳」を全員に購入させスケジュール管理や書き取る習慣を身につけさせる。

2 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ。

(1) 生徒の規範意識を高め、社会人として活躍できる人材を育成する。

- ① 地域と連携したボランティア活動(クリーンキャンペーンやあいさつ運動)を通して、社会の一員としての自覚を養い、規範意識の育成に努める。
- ② 時間を守ることの大切さを徹底して指導し、欠席・遅刻・早退を減少させる。
- ③ 通学時の安全確保のため、正門・通用門及び校外においても毎日交通安全指導を行う。
- ④ 美化意識を高めるために定期的に美化運動を行う。
- ⑤ 身近な生活の中生起する人権課題(いじめや SNS 等)に対して人権意識の高揚を図る。

* 欠席者数・遅刻者数を毎年 2 割ずつ減少させ 2 年後には半減させる。

(2) クラブ活動の活性化を図り、その成果を校外へ発信することにより、自己肯定感を養い、自立的発達を促す。

- ① 体験入部システムの改善や部活動結果の広報充実により加入率をアップさせる。
- ② 生徒に魅力あるクラブ活動を提供できるよう、教員が専門的知識の習得とスキルアップに努める。さらに体罰防止講習を実施する。

* 生徒の部活動加入率を次年度には 40%まで引き上げる(平成 28 年度は 25%)

3 中退防止の推進

(1) 1、確かな学力の育成 2、子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみに係る取り組みを実践することで、留年者・中途退学者数を 30% 減少させる。

4 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

(1) 入学時のオリエンテーションの内容を見直し、生徒が生き生きと学び夢が実現する学校であることをアピールする。

- ① 学校教育と家庭教育の連携を深め、保護者からの相談を積極的に受け入れる。また、学校からはさまざまな指導の協力を要請する。
- ② カウンセリングマインドを持ち、生徒の立場に立った指導を展開する。家庭との連携をとりながら生徒の自立を助け、正しい規範意識を身に付けた社会人の育成を行う。
- ③ 在籍生徒の出身中学校に年 2 回以上の学校訪問を行い、中学校との連携をよりいっそう密接に行う。生徒指導においては中学校教員の協力を得ながら、人間関係作り・自らの生き方を考える取り組みを推進する。

* 学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」の項目を今後 2 年間で 85%以上に引き上げる。

(2) 学校ホームページの充実を図り、学校情報の発信を強化することで、学校の信頼を高め、必要とされている学校という自信を生徒に持たせる。

<p>① 学校説明会・学校公開講座・楽習室(小中学生対象)の充実をはかり、開かれた学校づくりに努める。</p> <p>② 保護者への携帯連絡網を充実させ、登録割合を上昇させる。</p> <p>(3) 3年間を通じた計画的なキャリア教育を構築し、自らの手で将来を切り開く目と力を養い育成する。また、大阪中小企業家同友会と連携した取り組みを行う。 *キャリア教育において外部人材の登用回数と資格取得の機会を増やす。</p> <p>(4) 危機管理体制の充実と防災教育の再構築</p> <p>①いじめ等の未然防止、早期発見、対策について情報を共有し、機能しているか体制を常に点検する。</p> <p>②防災について有事の際のバリエーションをいくつか考え、より効果的な内容になるように再検討する。</p> <p>(5) 教育相談体制の充実</p> <p>①学校生活支援カードの活用や個別の支援計画の作成を通じて、教育相談体制の充実を図る。</p> <p>5 学校運営体制の確立と教職員の資質向上</p> <p>(1) 校長のリーダーシップのもと、校内組織の改編に取り組み、教育活動全般の改革を推進する。</p> <p>(2) 教職員の資質向上を図るため日常的なOJTの推進と校内研修の活性化を行う。初任者に対するメンター制度を導入する。また、校外研修で得た情報を校内でしっかり共有する。</p> <p>(3) ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教員の資質向上を図り、次世代の人材育成を行う。</p> <p>(4) 全校一斉教職員研修を実施する。(教職員全員で他府県の先駆的な取り組みまたは(5)の実現のため学ぶ機会を設ける。)</p> <p>(5) 外国籍生徒の指導において、「高校における帰国・渡日生徒の日本語指導に向けた受け入れマニュアル」を参考に日本語指導のみならず他の教科についての指導法や評価について支援コーディネーターを中心に教員全体の理解と資質向上をめざす。また、外国籍生徒の学力保障のため入り込み授業を実施し、外部関係機関や外部人材の協力を得る。</p> <p>(6) 業務の効率化を図るため、会議の回数の軽減と校務処理システムの定着をめざす。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 実施分]	学校協議会からの意見
<p>1、学校生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒からの「学校に行くのが楽しい」61%、「学校行事は、みんなが楽しく行えるよう工夫している」56%、「先生たちは生徒の意見をよく聞いてくれる」59%について、肯定的な評価は過半数を越えている。保護者からの「学校は保護者の願いに応えている」64%、「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」76%と高い評価となっている。 生徒「授業や部活動での活動を通して、地域の人々や他の学校と関わる機会が多い」32%、保護者「この学校の部活動・生徒会活動は活発であると思われる」39%ともに、本校の生徒会活動、部活動が活発ではないと感じている。生徒会やクラブ活動をしている生徒は、学校行事やボランティア活動にも積極的に関わっているが、多くの生徒に認知されていないようである。今後さらに多くの生徒に対して周知の徹底が必要である。 進路指導について生徒「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」58%、保護者「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」68%と過半数の支持を得ているが、多様な進路希望をもつ生徒に対して、更に生徒の要望に応じたこまやかな指導をおこなっていく。 いじめに対する学校の対応について生徒「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」56%、保護者「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」64%、ともに一定の評価を得ている。 生徒、保護者ともに教員に対して過半数が信頼を寄せ、学校生活に一定の満足感を持っている一方で、3分の1程度は、否定的意見であることを考えると、教員に見えていない部分があると考えられる。より一層注意して生徒を観察し寄り添う姿勢を持たなければならない。 <p>2、授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業はわかりやすく楽しい」(43期 1年生 64%→2年生 35%、42期 1年生 58%→2年生 22%→3年生 53%)、2年生が授業に対して、肯定的な評価が半数に満たない状況となっている。何故2年生次に評価が下がるのかを検討し対策を練る必要がある。また、1年次の数値も決して高いものではないので教員が意識をもってよりわかりやすい授業を心がける必要がある。 生徒の「教え方に工夫している先生が多い」60%という点から、過半数の生徒が肯定的意見を持っている。しかし、40%の生徒は、工夫している教員が多いとは感じていない。また、「DVDなどの視聴覚機器やコンピュータを活用した授業が 	<p>●第1回学校協議会【平成29年6月15日】</p> <p>【朝学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学習について、現在カリキュラムが変更となった1年生のみ実施。中学校と高校の課題は同じであり、特に授業規律をどうするかが課題。高校の指導の方向性は理解できる。中学校でも1分前予鈴は3年前から導入している。継続することで効果が上がっている。 2、3年生の朝学習のような機会については、2年生では看護師希望者向けの講習を実施している。進学希望者に向けた講習を夏期に開講するよう企画を立てている。講習以外でも学習課題を提供し自学自習する機会も作っていききたい。 <p>【授業研究PTについて】</p> <p>昨年度より有志で実施、校内外問わず授業を見学し、良いところを取り入れるようにしている。</p> <p>【地元探訪について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元探訪は各学年で企画、3年前から実施している。今年度は、3年生は高野街道、2年生は狭山池周辺、1年生は富田林寺内町を予定している。奥河内の歴史を知り、学ぶために学習、フィールドワークを行っている。 地元探訪について、ぜひ歴史ある河内長野を探訪してほしい。歴史について教えるだけでなく、課題を投げかけて考えさせるもの、自己研鑽できるものに取り組んで欲しい。石川清掃をお願いしたい。 地元の人に見てもらえることがポイントだと思うので、がんばってほしい。 子どもの関心を持つものを学校が提供することが重要だと考える。地元探訪のような関心を持つものを提供して欲しい。 <p>【多様な生徒に対する指導について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定員割れが続く中で生徒の変容の具体的な内容とその対応について、近年多様な生徒が入学している。その多様性に対して、個別の支援計画、達成目標の整備などが整っていない。早急にしかるべき機関でまとめていきたい。 多様な生徒に対して、個別の指導を手厚くしてくれていると思う。その中で先生方は大変ではないか。負担もあるが協力できることはしていきたい。情報交換なども迅速にさせてもらいたい。 生徒が主体となり活躍できる学校にしていきたい。保護者の思いも聞き取りながら教員にがんばってもらいたい。 <p>【部活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいクラブを作って欲しいという生徒からの要望はないか、ということについて、本校の部活動加入率が28%という中で生徒の意見も出にくいところもある。先生の得意分野で活動できたらよいと思っている。多様な生徒の活躍できる環境を整えていきたい。 スポーツの専門家など外部の方との協力について前向きに検討したい。 <p>【中学校訪問について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 堺市から今年は30名程度が入学。南海沿線から生徒が来ることも限界がある。河内長野市内の中学校にも積極的に中学校訪問を行う。 PTAの方も一緒に中学校訪問に行く高校がある。母校をなくしたくない思いがある。近隣の生徒が近くの美原高校と比べて決めている。自由な校風を求めて本校を受験する者もいる一方で、きちんとした生活習慣を身につけたいと考える保護者は美原を希望する傾向がある。今後の存続のためにもPTAの意見を取り入れる場を設けて欲しい。 学校としての課題と目標を分掌学年でまとめている。今年後半をどのようにしていくかをまとめ、先生の思いの詰まったものを中学校訪問でお示ししたい。 <p>●第2回学校協議会【平成29年10月12日】</p> <p>【環境美化について】</p>

府立長野北高等学校

<p>行われている」(44期27%、43期57%、42期52%)という結果より、1年生でのICTの活用があまり進んでいない。ICTに拘らず教員の授業に対するさらなる工夫が求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業については学習意欲があるが、生徒の授業を受ける姿勢について課題があるという自由記述が見られた。授業規律について、早急な改善が必要である。 <p>3、学校設備、環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎設備の老朽化については相当数の改善要求がある。一方で、生徒「掃除がいきとどいており、校内はきれいにたもたれている」29%との評価が低く、現状の清掃活動の改善を求める声や、清掃する機会を生徒や学校でつくるべきだという意見もみられた。 次年度はトイレの改修、プロジェクターの設置を予定しているが、今後も引き続き教育庁とも協議しながら改善の努力をし続ける必要がある。一方、校内美化に関しては、早急に改善すべき課題である。 <p>4、生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> 頭髪指導が厳しすぎるという自由記述の意見がある一方で、化粧、アクセサリ、アルバイトについてきちんとしたガイドラインや校則をとるべきという意見も多くみられた。また、保護者から単車通学などの交通マナー、制服の乱れなどの指摘があるなど、生徒指導面での意思統一が必要である。 <p>5、その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者ともに機能統合について、不安や疑問の意見が多く寄せられた。今後の学校生活が、生徒にとって有意義なものとなるよう、さらなる改善への方策と、生徒、保護者への説明を丁寧に行う必要がある。 また、保護者、生徒の回答率が昨年度より低下している。また、保護者の評価が全項目で下落をしていることから、本校の教育活動への関心を持っていただくための取り組みが必要である。(H29年度保護者28%、生徒85%) <p>[考察からの提案]</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業規律の改善に取り組むと同時に、授業改善に対する取り組みを積極的に行う必要がある。 校内美化について早急な対応を行う必要がある。同時に生徒自身に自らの環境を整備していくという意識を持たせる必要がある。 頭髪、制服、アクセサリ等生徒の身だしなみについて指導の取り組み方を再考する。 	<p>昨年に比べると、周辺地域へのごみのポイ捨ても減った。草むらや車の影などに多く捨てられてあったものが、今はかなり減ってきている。地域の祭りの時期はたむろしてゴミも散乱しているが今は落ち着いている。</p> <p>【対教師への暴言への対応について】</p> <p>昔と現在と時代も変わっていく中で、言葉が非常に荒れていっていると感じている。いったいどのような暴言があるのか、暴言で処分をする、しないの言葉の線引きはどのようにしているかについて、相手の存在を脅かす言葉(たとえば「殺す」など)を使ったときには厳重に対処している。処分は対教師であったときに行うが、生徒は状況にかかわらず日常的にそういった言葉を口走る傾向がある。大人とのかかわりで生徒も変わってくると思うので、今後も気をつけたい。</p> <p>【バイクの二人乗りや、喫煙をしたときの対応について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で暮らしていると、バイクで通学している生徒を見かけたり、明らかに遠方から来ているナンバーのバイクが近隣に停めてあったりするのを発見する。学校に伝えるが、教師が現場を発見しないと処分できないのか? <p>現場をおさえる以外の方法では、発見したバイクのナンバーを控える⇒教室で掲示⇒現認すべく巡回指導を強化する といった手段を講じている。しかし、注意をしても停めることを繰り返す常習者がいるのが現状である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登下校指導のプロジェクトチームを立ち上げ、下校指導、巡回指導の強化を行うよう体制を整えているところである。教師が巡回することで抑止につながればと思っている。 <p>【遅刻の対応について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻する生徒が多くいると、真面目な生徒も流されてしまって、ちょっとぐらいと思うようになるのでは? 学校生活ならば許される範囲の遅刻でも社会に出れば通用しない行為だと思う。もう少し、厳しく、でもやさしくご指導いただきたい。高校生活をもっと大切にしてもらいたい。 1年生の遅刻が多い。対応してはいるが、昨年、一昨年入学した生徒とは生徒の様子や状況が少し違っているようだ。 <p>【授業公開月間について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的にどのぐらいの先生が行なっているのかということについて、6月10件、9月はもう少し増えている。交流用紙を作成し、授業研究PTで結果をまとめて今後も進めていく。 授業が大切であることは基本。生徒にも伝え、授業に対する姿勢をしっかりとやっていただきたい。 <p>【地域活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒がいろいろな地域の活動で奉仕をしてくれている。見えるところ見えないところがあるが、陰で生徒がこつこつやってくれている。化石の発見など、本当にすごい。こうした活動の影には先生方の支えのおかげだと思っている。 <p>【漢字検定・書写検定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高2で漢字検定を行っている。 書写検定は年2回6月と11月に毛筆と硬筆を行っている。 <p>【長野北高校を守る会で署名運動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在1120名分の署名が集まった。これから文化祭に向けてもっと集めたい。来年度募集が終わったら、新入生が入ってこないというさびしい思いを生徒たちにさせたくないという思い、チャンスがほしいと訴えているところである。 地域行事(千代田フェスタなど)や愛さつ運動などで地域ではむしろ長野高校より根付いている。府民の中では存続の声が高まっている。 <p>【同窓会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度はすでに部活動における遠征の宿泊費用などを負担させていただいた。生徒の活動に関する協力は惜しまない。部活動を通してもっともっと活躍の場を広げてほしい。 <p>【地域の美化清掃活動について】</p> <p>ポイ捨ての原因は長野北高校の生徒ばかりではないと思われる。地域の病院などにも清掃の協力を依頼した。地域では若い母親と小さな子どもが草抜きをしている。もっともっとその輪が広がればよいなと思っている。</p> <p>●第3回学校協議会【平成30年2月1日】</p> <p>【授業アンケートについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにおける教科別の結果での評価は高いが学校教育自己診断アンケートにおける生徒の意見で、「授業がわかりやすく楽しい」のポイントが低くなっている。この矛盾点についてどのように分析しているのか。 教科別では、生徒は本音で回答しにくい部分もあるが、自己診断アンケートは生徒の要望や本音の部分が反映されていると分析している。 研修の報告を職員会議で行っているなど、教職員も自己研鑽をし授業の工夫もしておられるようだ。 <p>【地域連携などについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のあいさつ運動などに生徒は参加してくれている。社会に役立つ大人に成長してくれると思っている。授業もわかりやすければ楽しいと感じ、自然と勉強に取り組むはず。教科の知識も積み重ねられるとよりもっと楽しいと思うだろう。 行事においても、授業でも、おもしろい→役に立つ→できた、という経験が自己肯定感につながっていくのではないだろうか。 <p>【外国語教育について】</p>
--	--

府立長野北高等学校

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートで外国語のポイントが低くなっている。高校では文法などの勉強が多く、生徒が興味を持ちにくいのでは。楽しさを感じる授業ではなくなっているのではないだろうか。 ・英語が基本的にあまり好きではなく、また授業の内容も中学校1年生の範囲からすでにつまづいている生徒が多い。授業では、教養として英語が身に付くようにがんばっている。学力の底上げはできていると思っている。「規則動詞の活用」などはできているが、不規則動詞はあまりできない等があり、次の段階へなかなかすすめない壁がある。大学進学する生徒もほとんどが指定校推薦入試なので、学力的には伸び悩んでしまっているのが現状である。英会話も取り入れているが、ほとんど文法でつまづいてしまって定着しない。英字新聞の記事を用いてグループで学習させたり、アクティブラーニングを取り入れ工夫をしている。 ・授業の中で学力の差があって対応しづらいのではないかと。習熟度別授業など行うと効果があるだろうが厳しい現状もあると思う。 ・授業アンケートの生徒の自由記述欄は、すべての教職員にフィードバックしている。よりよい授業につなげていきたい。 <p>【プロジェクターの設置について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教室にプロジェクターを設置するなど学習環境の充実を図る上で関係各所のご意見などがあれば伺いたい。 ・できるだけ良い環境で学習してもらえるように、(同窓会として)できる限りのことはやりたい。いろんな教科があるが、映像を通して、視覚的に訴えかけるものから、深い学びにつながるのではと思っている。活用の方法などを工夫、充実していただけたらと思う。 <p>【保護者の意見や学校と家庭との連携について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断アンケートの保護者の回収率が低すぎる。参観に参加していく保護者も非常に少ない。来校者が少なすぎるためますます参観に参加しにくい。また、中退に関して、1クラスほど中退者が出ている現状で、なかなか登校しにくい生徒への学校からの連絡はどのタイミングで行われるものなのか。遅刻が増えたときに連絡を入れてもらえればよいが、遅刻や早退を親が知るのが一学期通知票をもらったときだったりする。保護者は学校から連絡がないと学校に行っていると思込んでしまっている。 ・1ヶ月に1回は出席状況を保護者にお渡ししている。遅刻者に関しては現3年生は毎日家庭連絡をしている。保護者によっては連絡がつきにくい場合もあるが、電話連絡は非常に密に担任が行っている。 <p>【いじめについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめについてや家庭内の問題など本人の状況についてどこまで学校は把握しているのか。 ・いじめを認識した段階で、複数で対応し、場合によっては会議で共有し情報交換をしている。また、細かい事案についてもすべて校長に報告してもらうようにしている。家庭の問題に関してはなかなか踏み込めない部分はあるが、通告が必要なケースはすぐに対応できるようにしている。 <p>【就学支援委員会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学支援委員会が年11回とかなりたくさん開かれているが、いったいどのような内容のものなのか。 ・教育相談と支援教育という二つの柱で、週に1回開催している。教育相談では不登校や人間関係につまづいている生徒の情報共有などを行っている。相談窓口となり、スクールカウンセラーとの連絡調整も行っている。また、支援教育では、学習面で配慮を要する生徒の情報交換を行っている。個別の教育支援計画もここで策定している。生徒の実態を把握し、より良い支援につながるよう、ケース会議などで全体に返している。 <p>【平成30年度 学校運営協議会の設置について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学校協議会が学校運営協議会に変わる。委員の方々には引き続きお願いしたい。次回の協議会では授業見学も検討している。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	<p>(1) 生徒の基礎学力を向上させる</p> <p>(2) 生徒の興味、関心、進路希望等に応じた教育課程を編成する。</p>	<p>① 教科での公開授業を定期的に行い、「分かる授業」「楽しい授業」の定着をめざし、教員相互で授業力向上を図る。</p> <p>② 「数学」、「英語」以外においても少人数授業を実施する。「数学」、「英語」においては、さらに踏み込んで習熟度別授業で学力レベルに合った授業を行う。</p> <p>③ 実験・実習を授業中に多く取り入れその成果などを発表する機会を設ける。</p> <p>④ 保護者向けの授業参観日を年に2回、土日を設定し、参加者の増加を図る。また、授業公開月間を設定し、研究授業を行う。(6月、9月)</p> <p>⑤ 業者テストを用い、その結果を補習や講習に活用する。</p>	<p>① 授業アンケートの「授業中は集中して先生の話聞き学習に取り組んでいる」や「授業に興味・関心を持つことができた」の項目における満足度を85%以上にする。</p> <p>② 学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目を75%以上にする。</p> <p>③ 「実験・実習の機会がある」を60%以上にする。</p> <p>④ 保護者の参加者数を50名以上にする。</p> <p>⑤ 進路未決定者の減少(28年度5名)</p>	<p>① 授業アンケートの「授業中は集中して先生の話聞き学習に取り組んでいる」「進んで学習に取り組むなど、授業に積極的に参加している」や「授業に興味・関心を持つことができた」の項目における満足度は1学期81%、2学期85%であった。ICT機器の活用、「協同的な学び合い」を推進する授業を取り入れた成果と考える。学校全体の取組として継続していきたい。(◎)</p> <p>② 学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目は49%(H28…42%)で数年数値が横ばいとなっている。生徒のニーズに応える一方でさらなる創意工夫が求められる。(△)</p> <p>③ 学校教育自己診断における「実験・実習の機会がある」の項目は51%であった。(H28…49%)</p> <p>数多くの実験や発表をおこなう授業によって生</p>

		<p>⑥授業研究プロジェクトチームを継続し、授業研究と研修を実施する。</p>	<p>就職内定率 100%</p> <p>⑥ 年 1 回実施する。</p>	<p>徒が能動的に学ぼうとする姿勢が高まりつつある。今後も更なる機会を設けたい (○)</p> <p>④2 回の授業参観日の 1 回を日曜日とし、保護者が来校しやすいようにしたが来校者が昨年度より減少した。2 回の参観で 50 名の生徒の保護者の参加があった。研究授業については、初任者教員が中心となって行うことができたが、教員相互の授業見学は、各自 1 回以上を目標にしたが、6 月 12 回 9 月 19 回であった。開かれた授業作りを進め、向上をはかりたい。(○)</p> <p>⑤進路適性検査、基礎力診断テストを実施しその後振り返りをする事で生徒に進路決定の意識を高めている。進路未決定の生徒は 12 月現在 11 名となっており、昨年度と同数である。(○)</p> <p>⑥授業研究 P T を有志で立ち上げ、数回に渡って授業方法の意見交換を行い、年 2 回授業公開月間を設けた。日常誰もが授業を見て意見を交流できる風土の醸成に今後も取り組んでいく。(○)</p>
<p>規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ</p>	<p>(1) 生徒の規範意識を高め、社会人として活躍できる人材を育成する。</p>	<p>① 地域と連携したボランティア活動 (クリーンキャンペーン年間 3 回、あいさつ運動年間 3 回) を実施する。校内においてあいさつ習慣を向上させるため、毎月「あいさつ週間」を設ける。</p> <p>② 遅刻指導の方法を一部見直し、生徒に自ら時間を守ることの大切さを考えさせる。</p> <p>③ 通学時の安全確保のため、全教員で当番を組み、毎日の校外で自転車指導を行う。</p> <p>④ 定期的に美化週間を設け、校内美化に努める。</p> <p>⑤ 部活動の活性化のために体験クラブの機会を増やすとともに外部指導者の招聘を行う。</p> <p>⑥ 「シチズン教育」の導入。国民・市民としての義務と権利について 3 年間で総合学習の中で系統的に学ばせ生徒の規範意識の醸成と地域交流の継続と発展をめざす。</p> <p>⑦ 「郷土学」を新コースとリンクさせながら充実させる。南河内の自然・文化・歴史を学び郷土愛を向上させる。3 年間で総合学習の中で系統的に学ばせ生徒の規範意識の醸成と地域交流の継続と発展をめざす。</p> <p>⑧ 人権ニュースを定期的に発行し、人権意識を醸成する。</p> <p>⑨ 「身だしなみ」講習 (3 年対象) の実施</p>	<p>① 千代田駅前でのあいさつ運動参加者数を 150 名以上にする。(H28 123 名)</p> <p>クリーンキャンペーン参加者数を 100 名以上にする。(H28 67 名)</p> <p>② 遅刻者数減少の努力を継続し、平成 29 年にはのべ 2500 名以下にする。(H28 5986 名)</p> <p>③ 通学状況について学校協議会の地域代表者等から評価していただく。(H28 指標なし)</p> <p>④ 学校教育自己診断において「掃除がいきとどいており、校内はきれいに保たれている」を 50% 以上にする。(H28 29%)</p> <p>⑤ 「部活動、生徒会活動が活発である」を 50% 以上にする。(H28 42%)</p> <p>⑥ 学校教育自己診断において本校独自の設問を設定し、満足度 70% 以上を目標値とする。(H28 55%)</p> <p>⑦ 学校教育自己診断において本校独自の設問を設定し、満足度 70% 以上を目標値とする。(H28 48%)</p> <p>⑧ 人権ニュースを年 5 回発行する。学校教育自己診断において「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を 60% 以上にする (H28 41%)</p> <p>⑨ 年 1 回民間企業と連携しスーツなどの「身だしなみ」講習を行う。(H28 1 回開催)</p>	<p>①千代田駅前でのあいさつ運動は、行事日程の関係で、2 回の実施となり、参加者については、82 名であった (H28 3 回実施)。しかし、生徒会役員及び有志により、あいさつ週間を 2 回設定 (述べ 10 日) し、実施した。また、クリーンキャンペーンは 72 名の参加であったが、3 年生は全員で校内外の清掃活動を実施。(◎)</p> <p>②12 月末現在の遅刻者累計数は 5458 件、評価指標に到達しなかったが、昨年度に対して減少傾向にある。また、朝学習では、遅刻者を教室に入れないなどの対応を行い、授業には落ち着いた状態で入れるようになった。次年度は、数の上でも更なる成果をあげる施策をおこなう必要がある。(○)</p> <p>③生徒の通学実態について、指摘された点 (通学路の美化、校則違反の通学方法) を改善させるため下校指導を行った。(◎)</p> <p>④自己診断において「掃除がいきとどいており、校内はきれいに保たれている」は 29% となった。(H28...29%) P T を立ち上げ、改善を図っている。学校全体の取組として清掃する機会を設定し取組むようにする (△)</p> <p>⑤自己診断において「部活動、生徒会活動が活発であると思われる」は 39% であった。水泳部でインターハイに出場、書道部や美術部で高校芸術祭入賞など活躍がみられる。加入率を更に高め、生徒が活躍する場を作っていきたい。(△)</p> <p>⑥3 年生は近隣の選挙管理委員会に来校してもらい選挙権についての講義を受ける機会を設けた。2 年生、1 年生においても独自の教材を用い国民・市民の義務と権利について学ぶ機会を設定した。(○)</p> <p>⑦自己診断において 57% の肯定的評価を得ている。地元を知ることで新たな発見もあり、生徒にとって得がたい経験をしている。全学年がそれぞれ異なる場所に赴き地元の風土文化の素晴らしさを再確認している。(○)</p> <p>⑧人権について学ぶ機会を学年ごとに設定し、継続的に人権ニュースを 6 回発行したが自己診断の結果は 39% と低調であったため、生徒が必要</p>

府立長野北高等学校

				とする課題について調査し指導していく。(△) ⑨3年生において3学期に民間企業と連携し「身だしなみ」の講習を実施した。生徒も知らないマナーについて興味深く学んでおり継続して実施していきたい。(◎)
中退防止の推進	(1)生徒が生き生きと学び夢が実現する学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 家庭との連携を強化する。連絡は電話や手紙に加えて可能な限り対面式とする。生徒指導以外でも積極的に家庭訪問を実施し、保護者との人間関係を構築する。 ② 担任と副担が協力して生徒の状況把握に努め、小さな変化も見落とさず、変化があれば面談をし、その後教員がチームを組んで指導する。 ③ 学校訪問で在籍生徒の情報を伝え、指導上の協力を要請する。 ④ 生徒の学習面での不安を除くために、学び直しの補習や講習を内容・回数ともに充実させる。 ⑤ 生徒の自尊感情を高め、自信をつけさせるために、総合的な学習の時間等を利用し、漢検・英検などの資格取得を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校教育自己診断の「学校に行くのが楽しい」の項目を70%に引き上げる。(H28は53%) ② 定期的な生徒の情報交換会を実施する。(年間6回以上) ③ 三者懇談会を年3回以上行う。 ④ 中途退者数10%減をめざす。 ⑤ 漢検・英検の合格者100名をめざす。(H28 英語検定は11名受検し準2級2名、3級3名合格、漢字検定は232受験検準2級3名、3級43名の合格。) 	<ul style="list-style-type: none"> ①自己診断「学校に行くのが楽しい」は61%だった。評価指標には到達しなかったが、多様な生徒が入学している現状の中、生徒の変化に対応し、問題行動以外でも家庭訪問や電話連絡を密に行うなど、教員の指導に対する保護者との信頼関係は高まったと考えられる。(○) ②生徒情報交換は、原則、学年ごとに毎週実施。その他、更に他学年に渡る先生も交えた意見交流の会議を設定し5回おこなった。(◎) ③三者懇談は各学期中間、期末考査後に実施した。(◎) ④中途退学生徒は12月末現在16名(42期0名、43期1名、44期15名)となっている。(H28年度は10名、内訳41期0名、42期5名、43期5名)(△) ⑤英語検定は16名受検し3級7名合格。漢字検定は、2年生の全員受験を含め、231名受検し準2級9名、3級37名合格。資格を進路に活かすために生徒が意識して受検をめざしている。講習等を行い支えていきたい。(△)
学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり	(1)生徒が生き生きと学び夢が実現する学校であることをアピールする。	<ul style="list-style-type: none"> ① カウンセリングマインドを持ち、生徒の立場に立ち、生徒の自立を助け、正しい規範意識を身に付けた社会人の育成を行う。 ② 指導上悩みを抱えた生徒の情報を、出身中学校にも情報を提供し、また情報収集しながら、生徒の人間関係作り・自らの生き方を考える取り組みを推進する。 ③ 河内長野市及び隣接の富田林市・大阪狭山の中学校訪問回数を増やし、連携強化を図る。また、生徒の出身塾を訪問する。 ④ 学校説明会・学校公開講座・楽習室の充実をはかり、開かれた学校づくりに努める。 ⑤ 携帯連絡網を駆使し、HPも活用したリアルタイムの情報の提供を行う。 ⑥ 知らせるべき進路内容を再確認し、HPや⑤の情報提供網を駆使した進路提供を行う。 ⑥ 就学支援委員会を中心に全教員が生徒の支援について共通認識を持ちケース会議を通じて迅速に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 相談室の利用者数10%増加(H28は37名)と生徒指導の懲戒件数10%減少をめざす。(H28は32件) ② 近隣3市の中学校訪問回数を3回以上行う。(H28は3回、全訪問回数110回)塾訪問50件以上行う。 ③ 学校教育自己診断の「学校からの教育情報提供」の項目の満足度90%をめざす。(H28は70%) ④ 学校説明会を年3回実施する。その中で、授業見学・体験クラブを実施する。楽習室を年2回以上実施し、参加者100名をめざす。(H28は39名) ⑤ 学校教育自己診断における「保護者への情報提供」の項目で、満足度を80%以上にする。(H28は59%) ⑥ 携帯連絡網の登録率を70%以上にする。(H28は62.5%) ① 週に一度、開催し情報共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①相談室の利用者数は45名(12月末現在)、生徒の懲戒件数は23件となっている。(◎) ②近隣3市のみならず大阪市内の中学校を訪問した。(3回、119校訪問、123校資料送付及び連絡)学習塾について57件訪問した。(◎) ③自己診断「教育活動に必要な情報について教職員は生徒・保護者への周知に努めている」については60%であった。(H28は65%)学校ブログを作成し、携帯連絡網の活用も意識的に取組んだ。(○) ④学校説明会を年5回実施した。9月の説明会は過去最高の50名の参加があった。学校公開講座は、11講座実施し、合計55名の参加。楽習室は1回実施し、40名の参加があった。(○) ⑤自己診断「学校は教育情報の収集や保護者への提供の努力をしている」については72%であった(○) ⑥携帯連絡網の登録率は69%となっている。保護者への迅速な情報共有に努めたい。(○) ⑦就学支援委員会を毎週実施し、配慮を要する生徒についての情報の共有と対応について専門家を交えて開催した。更に生徒ごとに教科担当、学年関係者を招集しケース会議を11回開催し、細やかな対応が出来るように努めた。(◎)
学校運営体制の確立	(1)教職員の資質向上を図るため日常的なOJTの推進と校内研修の活性化を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ① 校外研修で得た情報を共有する。 ② 校務処理システムにおいて、日々の欠課入力ができる基盤を作り、業務の効率化、軽減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員会議で学期に1名以上発表させる。 ② 校務処理システムにより、生徒の出欠状況の把握を行う。業務の効率化により職員会議を原則月1回とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学期に1名以上発表(1学期1名、2学期4名)できたが、全てにおいて十分な共有がなされていない。資料の共有などを含め推し進めていく必要がある。(◎) ②職員会議を原則月1回開催し、業務の効率化をはかった。校務処理の出欠の日々入力を行っているが教科の日々入力はできていない。平成30年度より実施する。(○)

と 教 職 員 の 資 質 向 上				
---	--	--	--	--